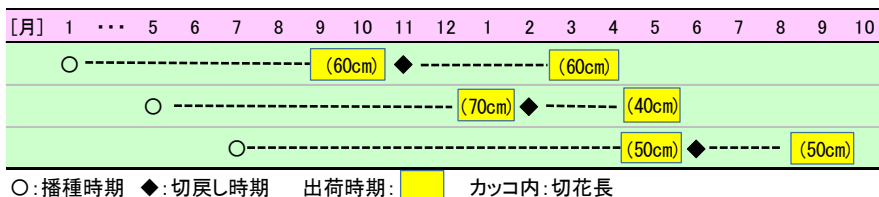


# 岐阜県農業技術センターニュース No.37

## 切花フランネルフラワーの春秋出荷が可能になりました！（花き部）

当所が育成したフランネルフラワー品種「ファンシーマリエ」は、切花用として初となる四季咲き性品種で、これまでオーストラリアからの輸入に頼っていた秋出荷に対応可能となりました。また、切花品質にも優れ、秋期でも40cm以上の切花を出荷でき、年間を通した高品質な切花生産が可能です。

さらに、切戻し時期を調節することで月単位の出荷時期の調節も可能となり、春秋期の需要に合わせた計画生産ができます。



## トマト増収技術についての現地試験を開始しました（野菜・果樹部）



上: 密植型改良ベンチ

下: 同ベンチを用いたトマトの生育

岐阜県オリジナルのトマト養液栽培システム「独立ポット耕」の生産性をさらに向上させるため、「清流の国ぎふ・農畜水産ナンバー1プロジェクト」において、栽培ベンチの改良、環境制御技術の開発、強勢台木利用等に現在取り組んでいます。

これまでに、慣行の1条植えベンチから2条植えベンチに改良することで栽植密度を高めて増収効果が認められました。また、強勢台木へ接木をすることで栽培期間の後半も樹勢が維持され、自根苗と比較して増収効果も認められました。

当センターで得られたこれらの知見について、県内の独立ポット耕生産者の圃場において、密植型改良ベンチ（2条植え）と強勢台木利用による効果について現地実証を開始しました。

## インターンシップ（就業体験）の学生を受け入れました

8月上中旬には岐阜農林高校生、8月中下旬には大学生、10月上中旬には岐阜県国際園芸アカデミーの学生の合計22名のインターンシップを受け入れました。作物、花き、野菜・果樹、土壌化学・病理昆虫の各部で作業体験する中で、就職が近づいている学生からは「この体験を受けて県職員になりたいと改めて思いました」等、様々な意見・感想をいただきました。

次年度も同時期に受入れていく予定で、県職員あるいは研究員等になりたい！と希望する方が増えるよう支援していきます。



# ハウレンソウの施肥技術改善に取り組んでいます！ (土壌化学部)

飛騨地域の雨よけハウスで栽培されるハウレンソウは、夏期の冷涼な気候を活かして生産され、市場評価も高い重要な品目です。高品質かつ経営に有利な生産を続けるためには適正な施肥を行う必要がありますが、同一ほ場内で連続して作付するため、土壌中の肥料成分がどのように使われているのか、不明な点が多いのが実情です。

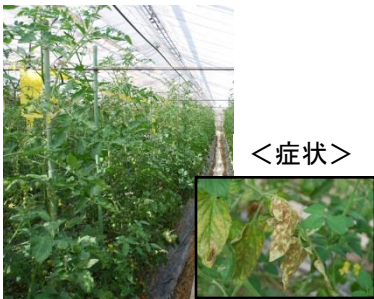
そこで、中山間農業研究所と協力し、年間を通じた肥料成分の動きを把握し、土壌消毒等の影響や緩効性肥料の効果を加味し、より効果的な施肥体系が構築できるよう取り組んでいます。



施肥試験状況

# AIを活用した新技術開発のプロジェクトが始動！ (病理昆虫部)

農林水産省の委託プロジェクトに参加し、産学官が協力して「AIを活用した病害虫診断技術の開発」に取り組めます(平成29年度～平成33年度)。本センターではトマトの病害虫について担当し、スマホなどで撮影した画像を送ることで、迅速に病害虫を診断してくれるシステムの開発を目指します。



<画像>



携帯端末で画像撮影

システムへ送信

<診断結果>

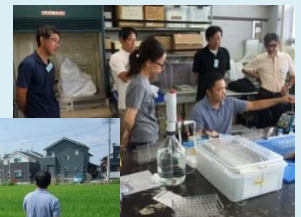
病名 : 一致率  
葉かび病 : 94%  
すすかび病 : 83%  
灰色かび病 : 52%

【病害例イメージ図】

## 水田土壌可給態窒素の簡易・迅速評価法研修を行いました

当センターが参画する農水省委託プロ研究(適正施肥技術プロ)で開発した「水田土壌可給態窒素の分光光度計による簡易分析法」について研修を行いました。本研修は他県等からの技術習得だけでなく、東海地域農業関係試験研究機関の人材育成研修としても実施しました。

農研機構、鹿児島県、愛知県、徳島県の研究担当者が参加し、所内での可給態窒素を踏まえた施肥試験の状況を観察し、分析を行う上での細部の注意点や、現場展開する上での意見交換を行いました。



## ★★★平成29年度 成果検討会 を開催します★★★

期日：平成30年2月15日(木) 場所：農業技術センター講堂

※詳細は後日ホームページに掲載いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

岐阜県農業技術センター

〒501-1152 岐阜市又丸729-1

Tel 058(239)3131

<http://www.g-agri.rd.pref.gifu.lg.jp/>

池田試験地

〒503-2407 揖斐郡池田町般若畑631-11 Tel 0585(45)3837